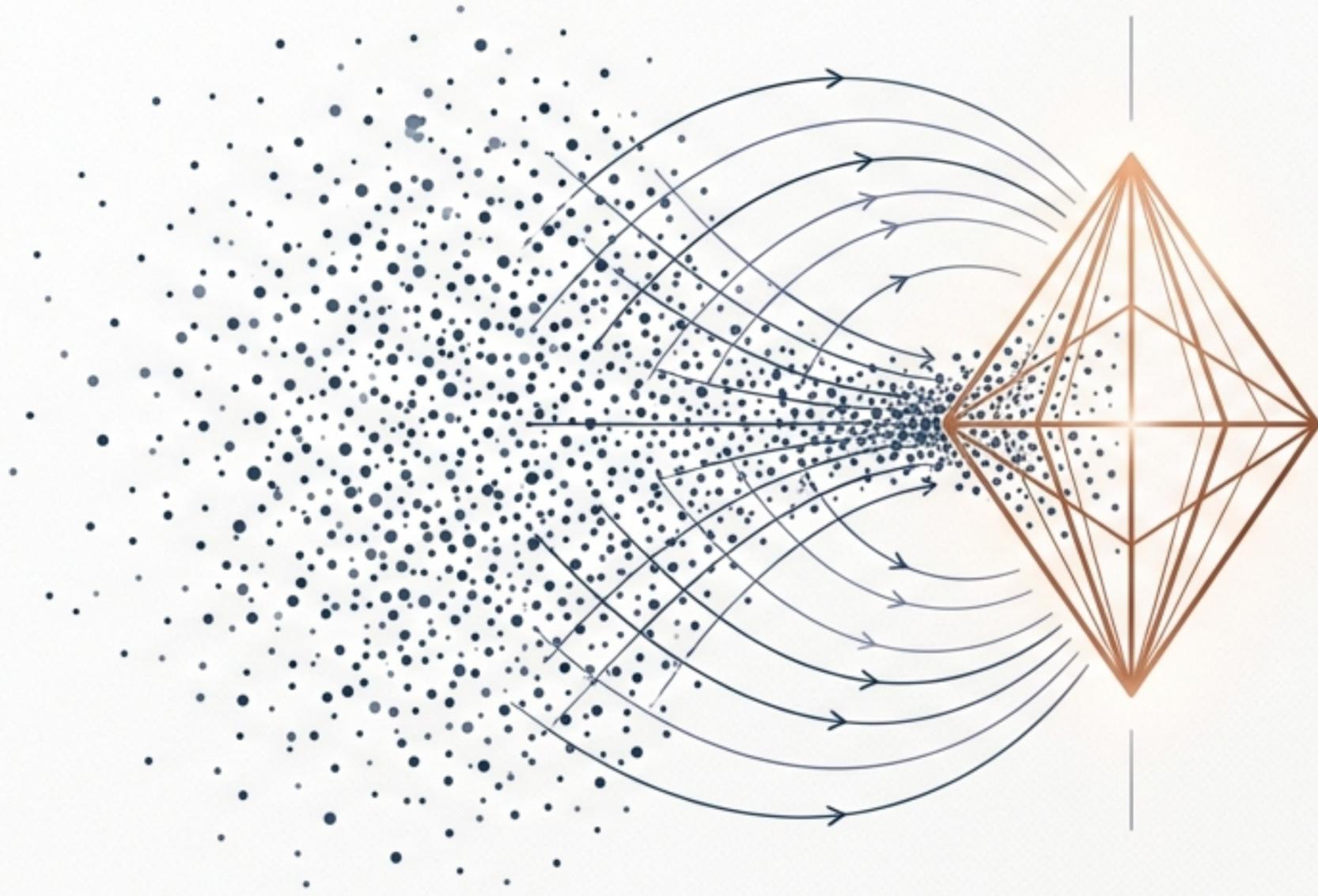


Gemini 3.1 Proがもたらす知財業務のパラダイムシフト

2026年、推論型AIと自律エージェントによる「IP主導」戦略への転換



Executive Summary



1. 「記憶」から「推論」 へ

ARC-AGI-2スコアが77.1%に到達。未知の論理パターンを解明する「思考するAI」の誕生。



2. 業務の自律化

調査・ドラフティング・分析における、マルチステップの自律エージェント (Autonomous Agents) の実装。

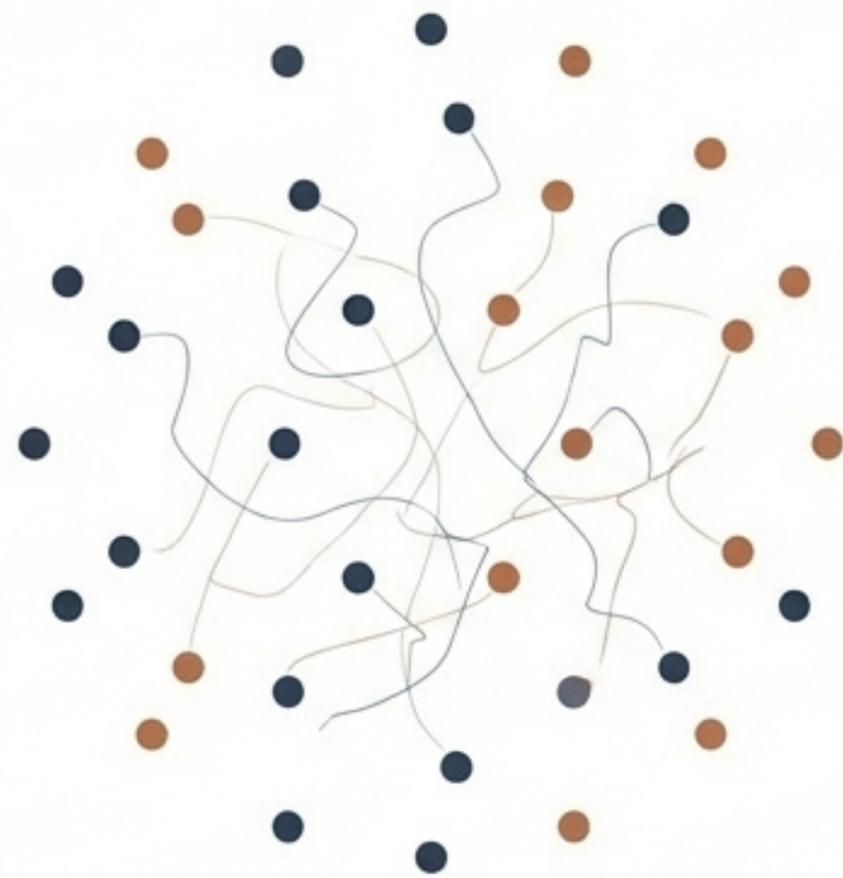


3. コストセンターからの 脱却

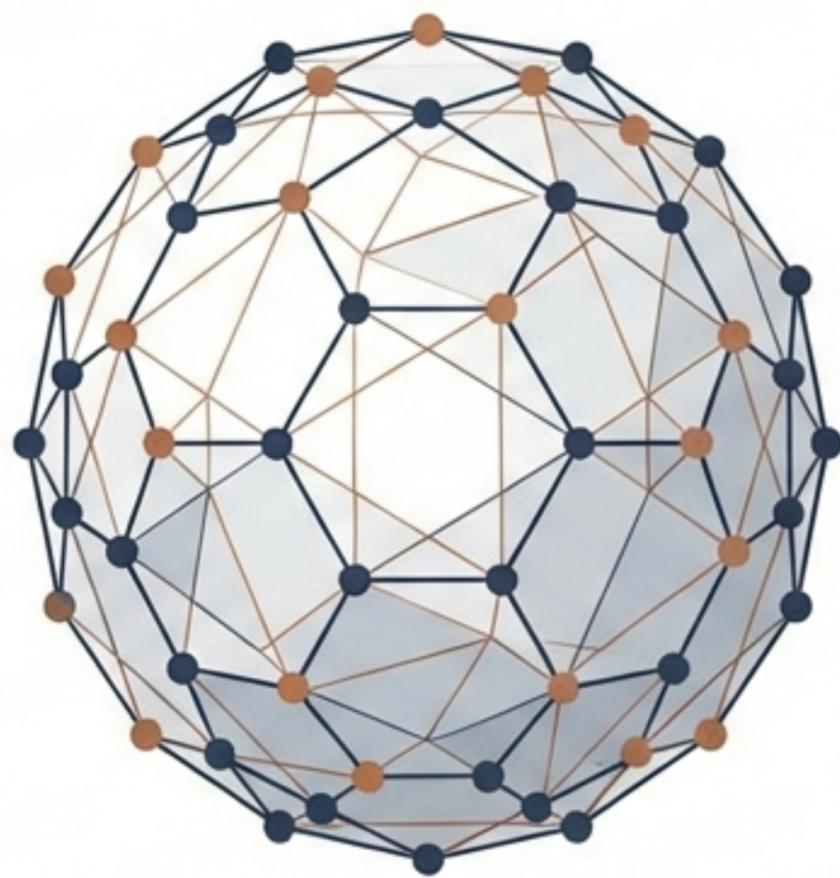
事務処理を自動化し、リソースを「IP主導」の価値創造 (SEP 形成・ホワイトスペース探索) へ。

本質的な進化：単なる知識検索から「構成的推論」へ

従来のLLM
(Pattern Matching)



Gemini 3.1 Pro
(Compositional Reasoning)



ARC-AGI-2 Score

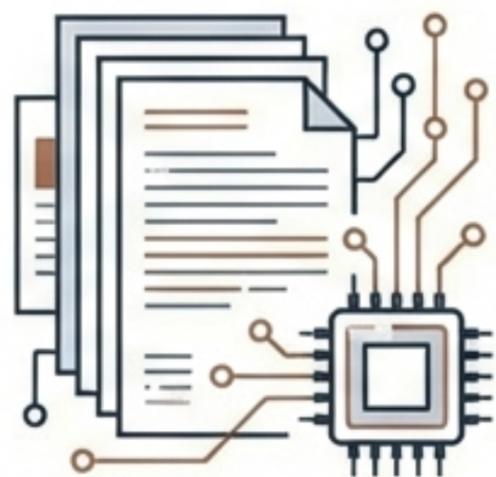
77.1%

2.5x vs Gemini 3 Pro

2026年2月リリースのGemini 3.1 Proは、マイナーアップデートではなく世代的な飛躍 (Generational Leap) です。従来のAIが苦手とした「未知の論理規則」をその場で抽出し、解を導く構成的推論 (Compositional Reasoning) が可能になりました。これは、特許実務における「クレーム解釈」や「均等論の当てはめ」に不可欠な能力です。

スペックが拓く可能性 - I/Oと精度の革命

MASSIVE INPUT



100MB

Context Window

特許PDF数十件 + 製品仕様書
+ 全ソースコードを一度に読み
込み可能。

DEEP OUTPUT



65K

Tokens

途切れない長文生成。クレ
ームチャートや詳細な侵害鑑定
書を一括で出力。

RELIABILITY

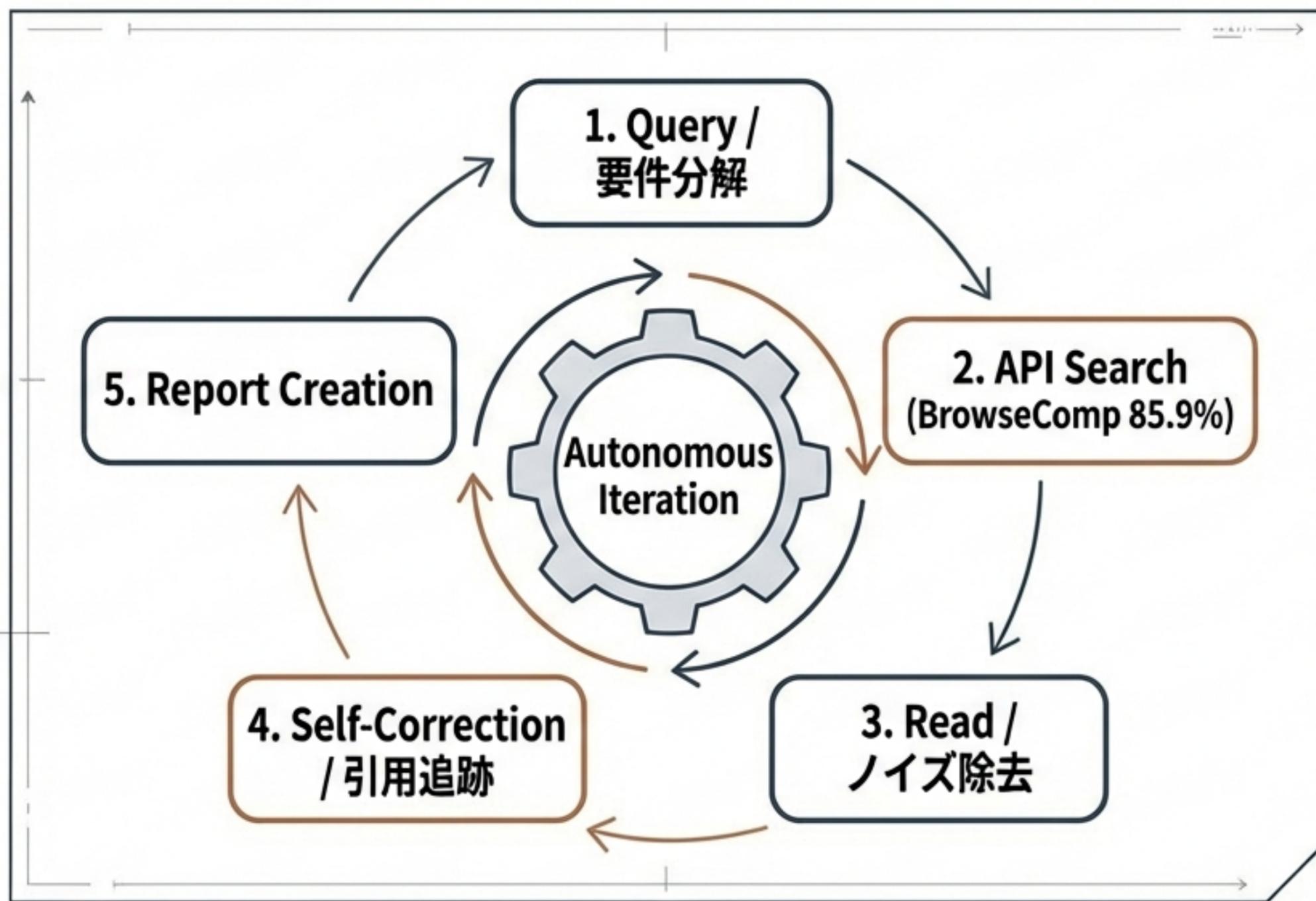


74%

Legal Accuracy

Box AI Eval評価。法的な因果
関係を正確に把握。ハルシネ
ーションは50%削減。

Revolution 1: 自律型・深掘り先行技術調査 (Deep Research)



Before: シングルステップ検索 (15-20時間/件)。検索漏れのリスク。

After: 自律エージェントによるマルチステップ検索 (2-3時間/件)。

Process Detail:

1. 要件分解と類義語展開
2. 特許DB APIの直接操作
3. 引用・被引用ネットワークの自律的な追跡
4. ノイズ除去とレポート作成

Revolution 2: 拒絶理由通知 (OA) への論理的応答

進歩性 (Non-obviousness) の論理構築

引例A
(Reference A)



引例B
(Reference B)



阻害要因
(Teaching Away)

阻害要因 (Teaching Away) の発見: 引例Aと引例Bを組み合わせることを妨げる記載を抽出。

動機付けの欠如: 審査官のロジック (Graham要件等) の脆弱性を突き、反論骨子を作成。

Gemini 3.1 Proは、単なるキーワードマッチではなく、引例間の技術的・法的な文脈 (Contextual Rule Application) を理解します。

Revolution 3: マルチモーダル・ドラフティングとSVG生成

ピクセル（画像）からコード（SVG）へ

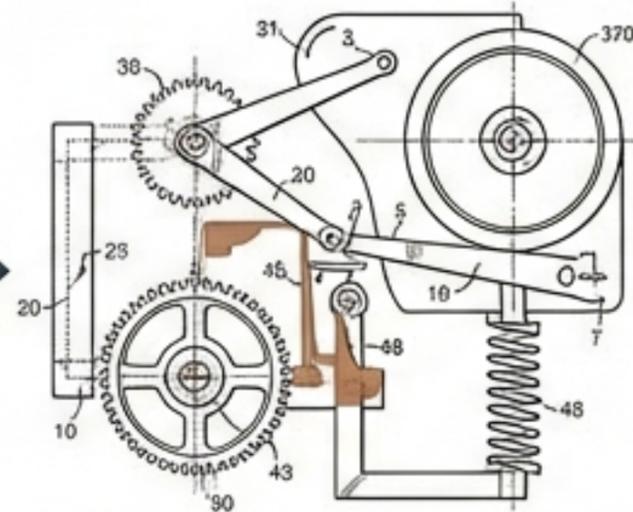


Text Prompt



```
<svg...>  
<path d="M10 10 L90 90..." />  
...  
</svg>
```

Vector Code Generation

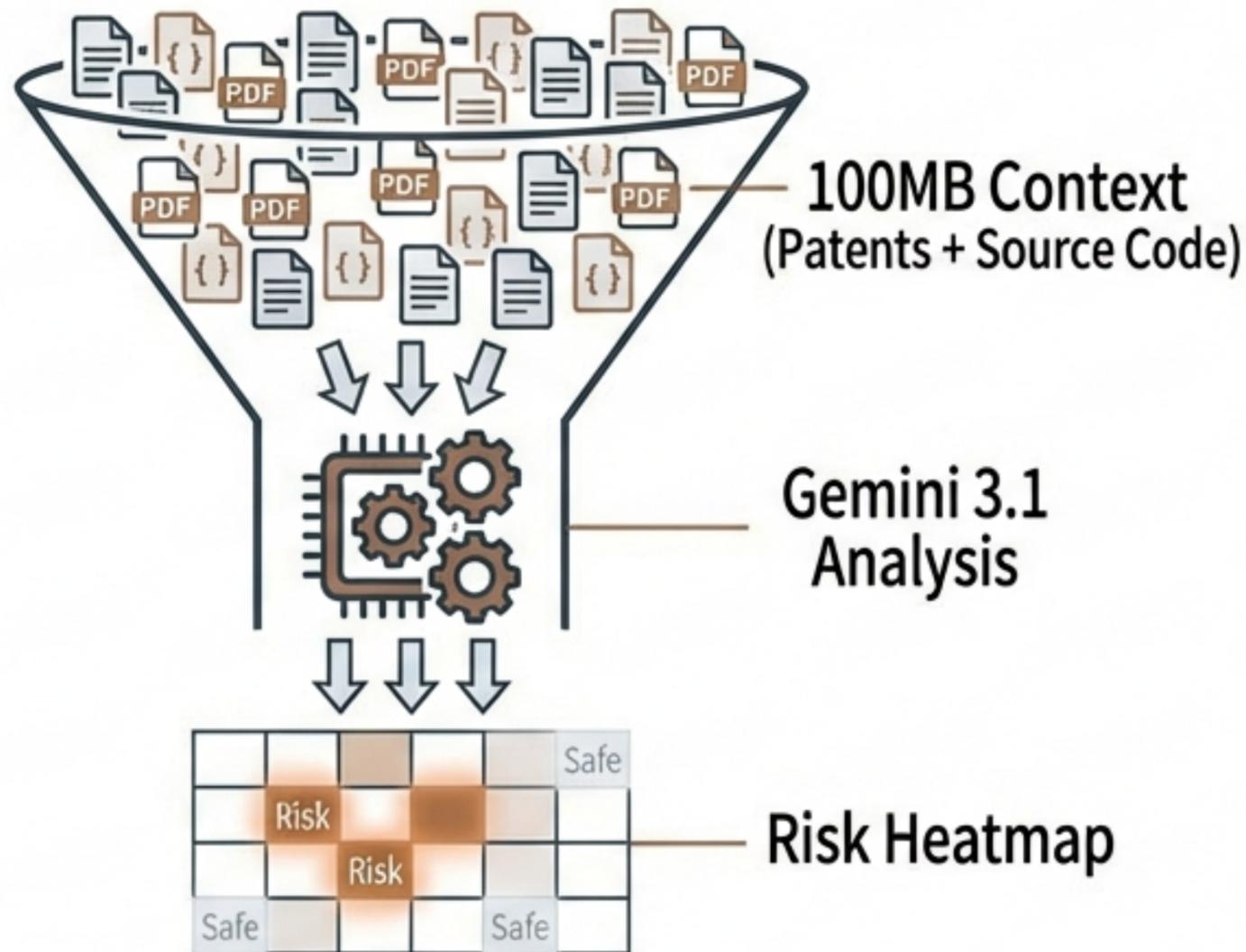


Editable Patent Figure

- **編集可能性:** CADやベクターソフトで直接編集可能なパスデータとして出力。
- **整合性チェック:** 明細書本文と図面内の参照符号（Reference Numerals）の不一致を自動検出。
- **劣化なし:** いかなる解像度でも鮮明な特許図面。

Revolution 4: 大規模ポートフォリオとFTO解析

M&Aデューデリジェンス & 侵害予防調査

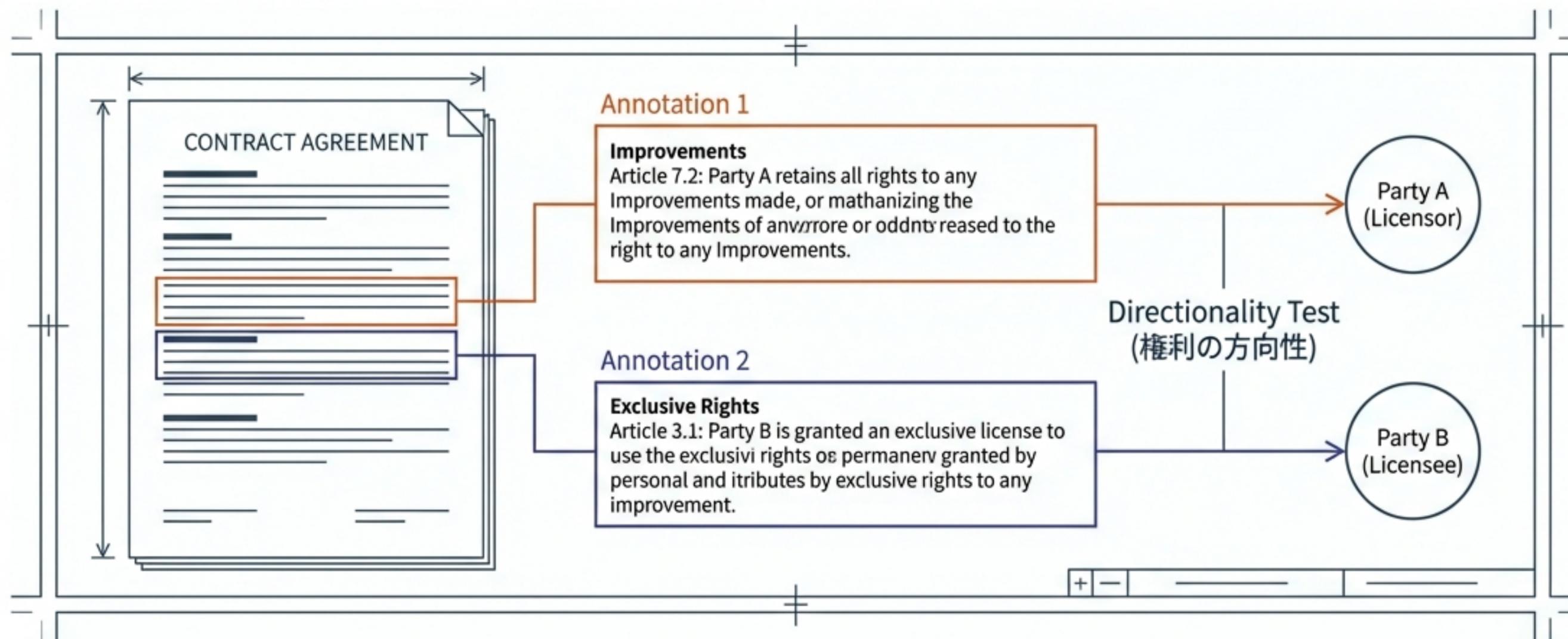


100MBの威力: ポートフォリオ全体と製品仕様書（またはソースコード）を分割せずにコンテキストへ投入。

クレームチャート生成: 構成要件ごとに製品仕様をマッピングし、侵害リスクをヒートマップで可視化。

SWE-Bench 80.6%: 高度なソフトウェア特許のコード解析も可能。

Revolution 5: 契約書の法的ニュアンスと因果関係の解釈

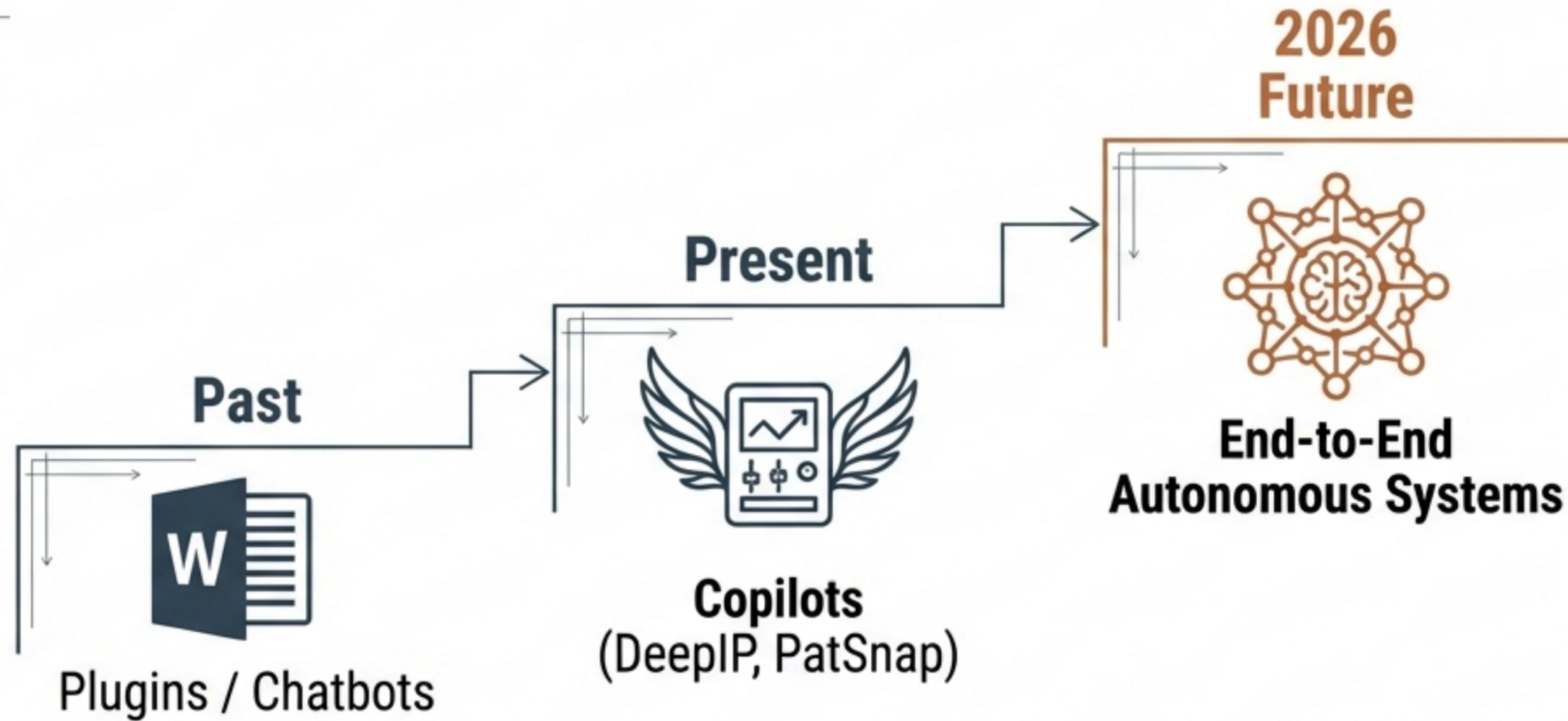


Gemini 3.1 Proは、キーワードの有無だけでなく、「誰が、誰に対して、どのような条件下で権利を持つか」という法的なベクトルを理解します。

**活用例:

- クロスライセンス契約における改良発明 (Improvement) の帰属判定。
- 複雑な条項間の矛盾検出。

IPTech市場の進化：コパイロットから「自律型システム」へ

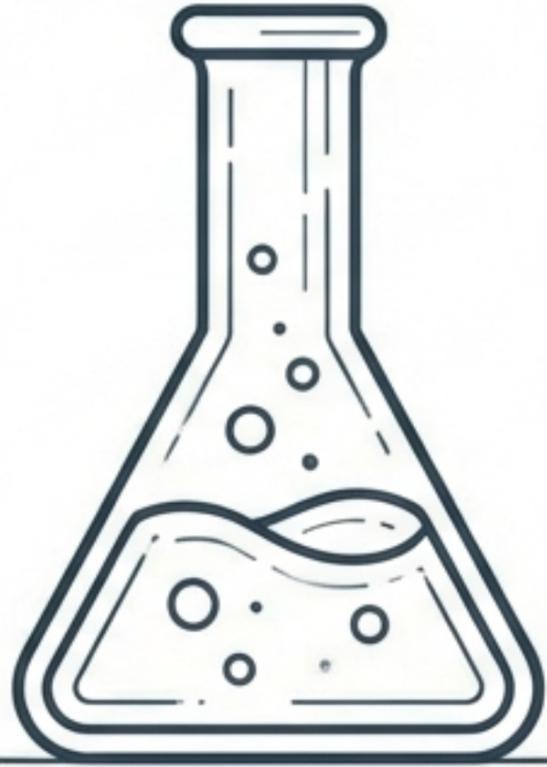


人間は「ドラフター（起案者）」から「レビュアー（戦略的検証者）」へ役割が変化。
PatSnap Eureka等のツールは、Gemini 3.1 Proをバックエンドに統合し、調査時間を90%削減
(20時間→2時間)。

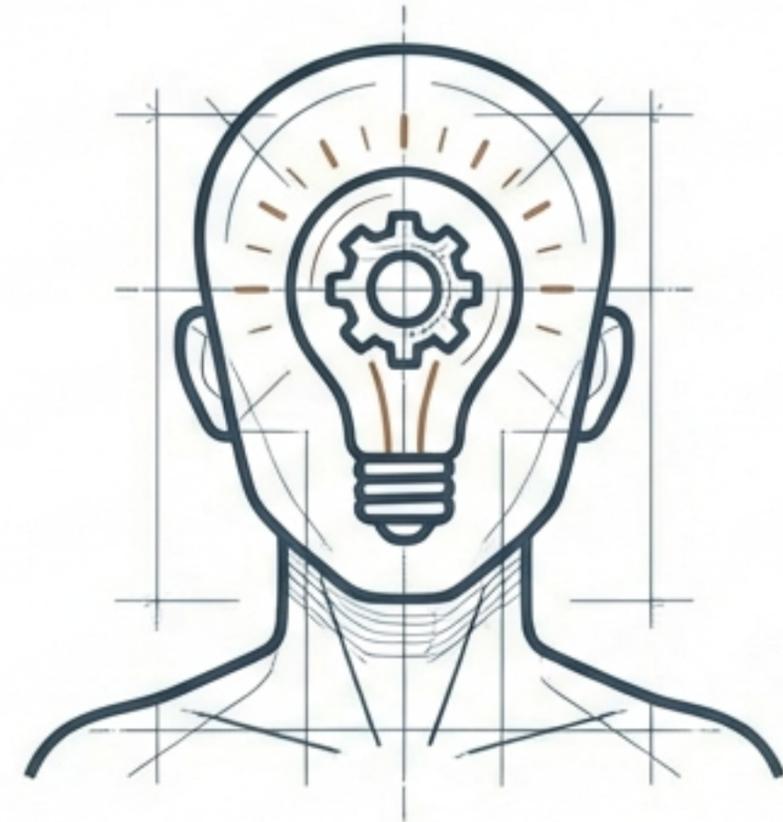
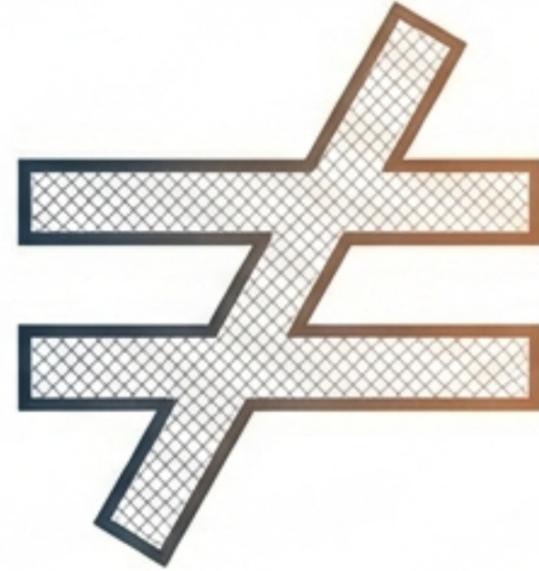
40:32

40:55

法的ガバナンス：USPTOガイドラインと発明者要件



AI Tool



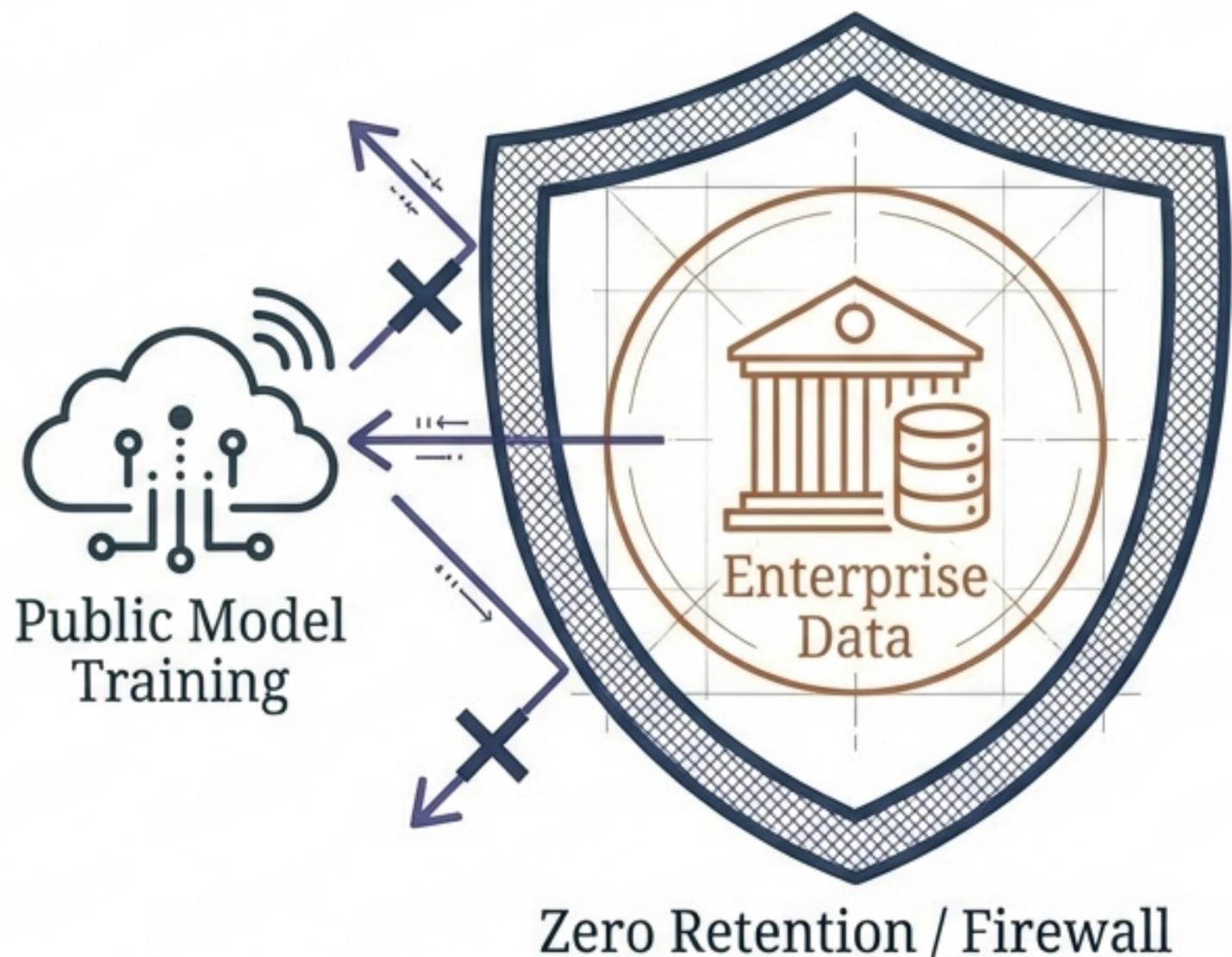
Conception (自然人)

2025年11月 USPTO改訂ガイダンス

- AIは発明者ではない：AIは高度な「ツール（実験室のフラスコ）」であり、Pannu要件は適用されない。
- 着想（Conception）の所在：特許権は、AIを使用して得られた結果に対し、明確な着想を持った「自然人」にのみ帰属する。

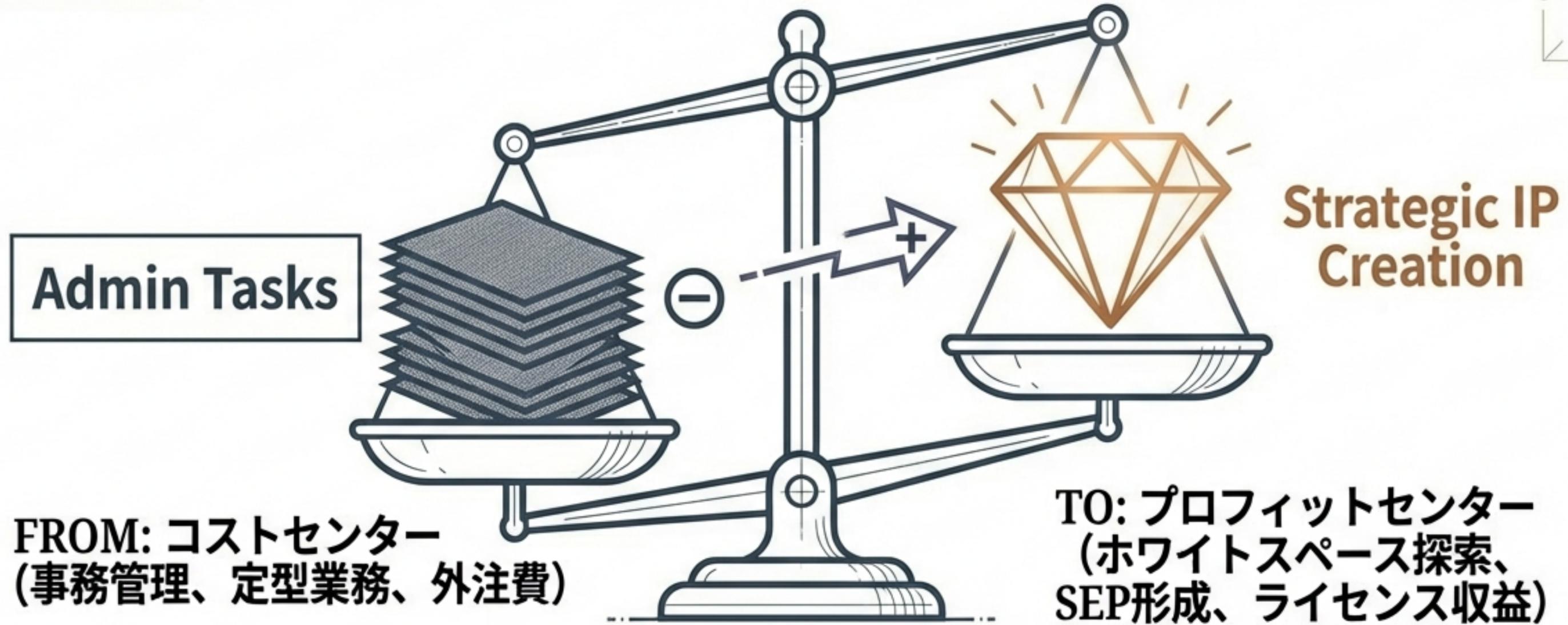
リスク管理とHuman-in-the-loop

Sandbox Security Diagram



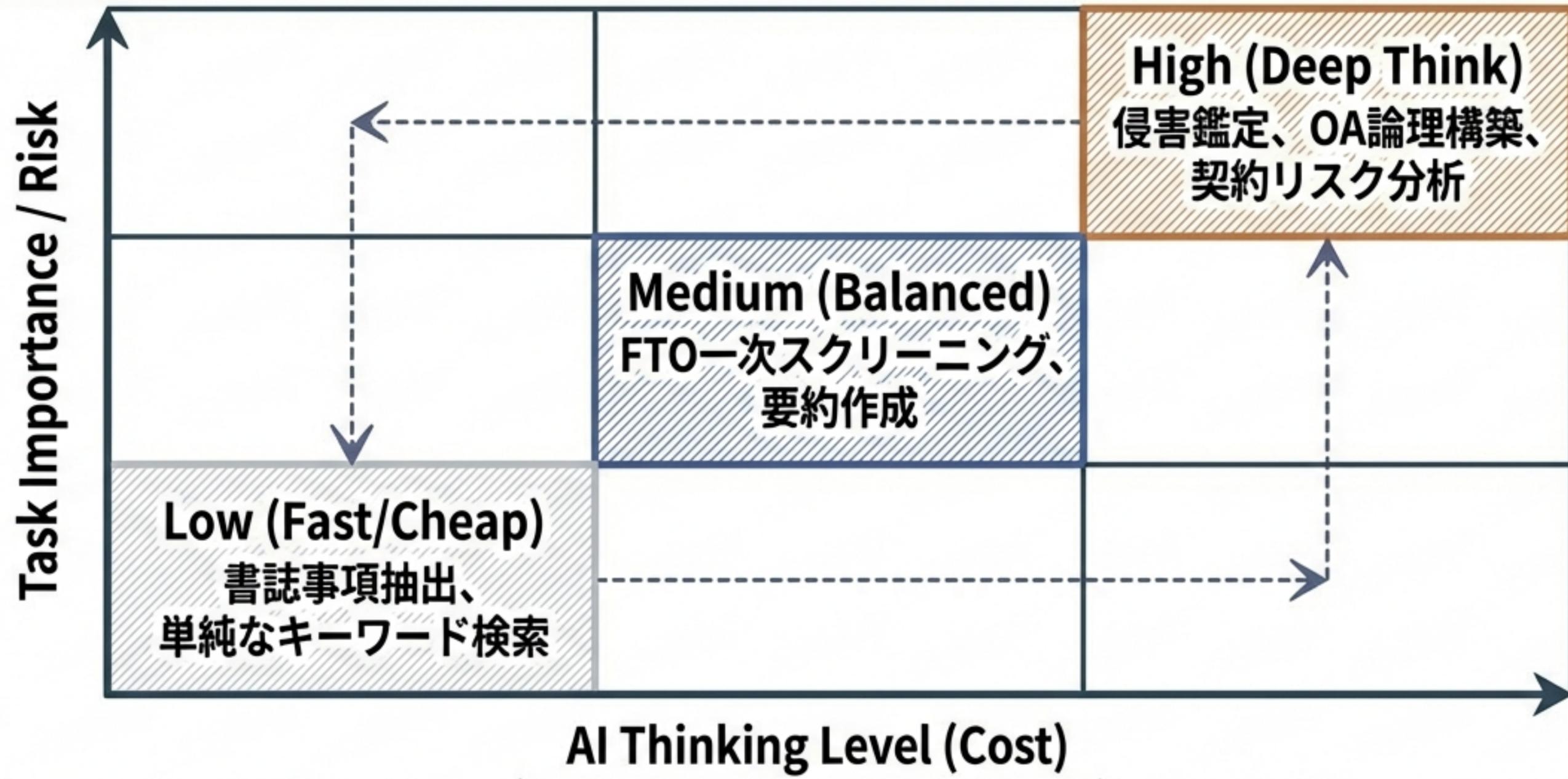
- **Zero Retention契約**：
入力データがモデルの学習（Prompt Training）に流用されない契約の必須化。
- **監査証跡（Audit Trail）**：
「人間が着想し、AIを制御した」プロセスを記録・保存し、将来の無効審判リスクに備える。
- **Human-in-the-loop**：
最終的な法的判断と承認は必ず人間が行うガバナンス体制。

組織変革：サービス主導から「IP主導」へ



“IP scales infinitely.” (IPは無限にスケールする) - Roshni Nadar Malhotra (HCL Tech)

運用モデル：思考レベル（Thinking Level）の動的制御



Low (Fast/Cheap)
書誌事項抽出、
単純なキーワード検索

Medium (Balanced)
FTO一次スクリーニング、
要約作成

High (Deep Think)
侵害鑑定、OA論理構築、
契約リスク分析

AI Thinking Level (Cost)

40:32

40:SS

結論：2026年の知財部門のあり方

Gemini 3.1 Proは、単なるツールではなく「仮想特許技術者」です。勝者は、AIを導入した企業ではなく、AIと協調する「新ワークフロー」を構築した企業です。

事務作業から解放された知性で、次世代の競争優位性（IP）を設計せよ。



40:33

48:55